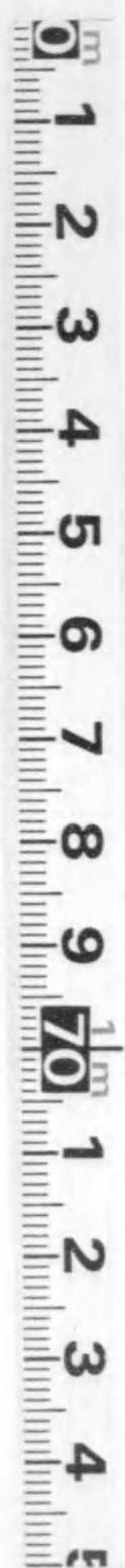


326  
332

口  
速  
第九回  
同会編



始



欠

1468  
24

326-332



目次

○露國の時事問題

○東露の實情

陸軍本部員 井 染 祿 朗

陳列館實館長 森 御 蔭

大正  
7.9.13  
内交

欠

## 東 露 の 實 情

森 御 蔭 君 講 演

唯今日賀田閣下から御紹介のありました森御蔭であります何も詳しく知つて居る者ではありませぬが兎に角暫く彼方に參つて居りまして最近に歸つて參りました私  
の後で又井染中佐の御話がございますから成るべく簡単に要領だけを御話して皆さ  
んの御清聴を煩はすのは洵に光榮の至りに存じます

私が御話致さうと思ひますのは主に貝加爾以東の實際の状態——貝加爾以東の事  
を私は東露と簡単に申します——貝加爾以東は御承知の通りに後貝加爾州、黒龍州、沿  
海州、樺太州、堪察加州此五ヶ所から成りまして其面積は丁度日本の七倍強に當つて居  
り人口は約東京の人口位で極く稀薄でありまして二百萬内外であります一平方哩僅  
に〇・四一人足らずの人間になつて居ります今日大分騒いで居ります彼の克薩哥も矢  
張此人口の中に入りまして約三十六萬位でありますまだ克薩哥の外に土人——土人  
の主なるものはヤリヤークといふ土人でありまして是が約二十二萬位の人口を有つて

居ります唯今申しました所の範圍に於きまして現在に於ける混亂狀態其次に獨逸勢力の東漸といふことを主に御話致したいと考へます

二月の末でございます彼處の十月黨の親玉のクズネオックといふ人であります其人に久し振に遇ひましたどうしたと言ひますと森さん能く來て呉れたどうです此露西亞の狀態は實にどうも遺憾ではありませぬか私は全く今日に於ては露西亞人といふことは出来ませぬ——露西亞國といふことは出来ませぬ實に是は慚愧に堪へない此事は吾々の理想として居る所のものであつた併ながら是は千年先きにズン／＼進んで行つて初めて此恰憫の思想に達しなければならぬそれを一時にやらうとした今日直に斯うやらうとしたそれで間違つてしまつて是は逆も此混亂の狀態を收拾することは出来ませぬ露西亞人自身では如何なる事があつても出来ませぬ如何にかして外國の力を藉りなければ往けませぬ能く來て下さつたらどうしたら宜いものであらうと云ふやうな相談其他約二百人餘の過激派半過激派其他の人に大分會つて見ました會ひました所の人の言葉は今クズネオックが言つた所の二つの言葉を皆異口同音に言ふのです所謂此混亂たる狀態を收拾することは單に外國人の力を藉るより外に仕方がないと云ふことゝ實に露西亞人といひ露國といふのは慚愧の至りに堪へないと

云ふ此二つの言葉といふものは私が會ひました所の人が皆異口同音に話をされました之に依つて最早澤山の言葉を費さなくとも如何に混亂して居るといふことは殆ど察するに餘りあるかと存じますけれども先づ尙ほ少しばかり混亂の狀態を御話致さうと思ひます商店といふ商店東露に行きますと三越みたやうな大きなデパートメントストアがありますそれが殆どガラシとしてゐます唯下の方の小さい部屋に少し品物を列べて居るといふやうな併し是は所に依つて違ひます例へば浦鹽斯德の如きは交通が便利でありますから大分ありましたハバロフスクに行くとはコントラバンドの關係で以てまだ浦鹽斯德よりも尙ほ餘計あるといふやうなブラゴウエシチエンスクに行きますと段々無くなつて行きましたスタインに行きますともう殆ど何も無いと云ふやうな有様でありますさういふ有様でありますからして品物を賣るのも皆制限をして更紗一人に付て二尺しか賣らぬとか所に依ると一尺しか賣らぬとか多い所は三尺賣るといふやうな有様で小さい所の商店中位の商店は閉めて居るといふ有様であります食料品の主なる麵麩肉砂糖斯ういふやうなものは糧食局といふものがあつて其處で主に取扱つて或は市で以てせられまして是も制限をして例へば是も處に依つて違ひますが麵麩は一日に一人一斤或は一斤半といふやうな所又肉は一ヶ月

に六斤といふやうな有様砂糖の如きは一ヶ月に一人に付て一斤といふやうな風にやつて居るやうな有様であります其状態が丁度此二月三月頃の有様であります所が進んで最近雪解になつて來ますとサア所に依り播く種子が無いどうしたら宜い種子が無くして播かなければ今年の食料品は何も無いといふやうな風で大分訴へて來ましたそこで到頭哈爾賓から種子を送つてやつたことがありました段々進んで一方は商品が入る所が無い又出來て居る物を出すことも出來ないといふやうな混亂の状態でありますから何うも斯うも仕方がなくして益々其混亂の状態が劇しくなるといふやうな有様であります又一般の市の有様を見ますと人殺しなどは當然のことであります是は混亂の状態でなくとも前には大分ありました今日は又中々多くあります強盜の如きも皆隊を組んで入る例へば浦鹽斯徳のウエルサーリといふホテルに二三十人の兵隊が隊を組んで飛込むといふ又ブラゴエシチエンスクのセントラルホテルに又三四十人隊を組んで入り皆御客さんの物を何も彼も取上げてしまふと云ふやうな有様或は自働車に乗つて來る者があると一寸此人が金があると見ると自働車に乗込んで行つて取つてしまふと云ふ餘程面白いことはイルクロークで兵隊が二人やつて來ました其處に私の知つて居ります後貝加爾鐵道の重役それがやつて居る所

に來まして兵隊曰く貴方は今迄贅澤を極めて居つたのだ是から吾々がやるべきことである貴方の外套と自分の着て居る所の外套と換へると云ふ若し換へなければと云つてピストルを向ける仕方がないから先生兵隊の外套と換へるさうしてポイイに命じて彼の兵隊の外套と換へて來たから兵隊の外套に何が入つて居るかポケットを見ろポイイがポケットを見るとポケットの中に一萬何千留といふ金が入つて居たと云ふ又哈爾賓に於て面白いことはマカラカンス黨と云ふ斯ういふ事は秘密になつて新聞にも出ないで居りますが東清鐵道の技師であります冬二月の末に歩いて行つた所が兵隊がやつて來てピストルを向けてドン／＼脱がせる外套だけ脱いだら宜いかと思つて外套だけ脱いだら又下を脱がせる皆脱がせてドン／＼逃げて行つた片方は素裸體になつて這々の體で歸つて來たと云ふさういふやうな有様で實に混亂を極めて居ります斯ういふ混亂が實は昨年十一月末あたりから今年の二三月頃まで盛んになり三四月は非常に盛んであつたもう三月四月になりますと過激派の奴は殆ど取る丈取つてしまつて或は工場に或は製造場に到る所取つてしまつたといふやうな有様其取つた時は宜かつたのだが今日になるともう既に有る所の物は使つてしまつて金は取つた時はあつたでもう今日は無くなつてしまつた製造する物は取つた時か

六  
ら暫くはあつたけれども材料は無くなつた如何にして此材料を得るかどうして製造するかと云ふことが分らないと云ふやうな有様で今日になると殆ど先生は閉口をしてどうか前の製造者や或は工場主が歸つて呉れて又元の通り整理をして呉れば寔に有難いものだ吾々は又従業者になつて動くと言ふ者になつた者が多く殆ど千人の中に九百七八十人はさういふ風になつて居ると云ふても決して過言ではないと言つて宜いのであります其時私は或所で大恥を掻かされて非常に赤面して参りましたと申しますのは日本の商品今此處に一寸持つて來て居りますから後で御目に懸けますが其商品が寔に悪いのです所謂粗製濫造で露西亞人は今品物が此通り無いから日本から取るが日本の品物は此通り悪いのだと云つて或はコップを持つて來て是は日本製だと云ふてコップに湯を注いでパチツと割らせて見る此通りだ又更紗や綿フランネルなどを持つて來て是は日本製であると云つてピリ／＼破いて見せませうそれから洗つて見せて此通りに褪色してしまふとか色々到る所で實物教授で以て苛められました皆曰く若しも日本が日露親善又日露貿易を盛んにしやうと思ふならば斯ういふ時に何故助けて呉れないか全く火事場泥棒をやつては困るではないか全く火事場泥棒をやつた日本は其爲めに或は儲かつて富んで居るだらうけれどもお隣の我國

七  
はどうであるか斯ういふひどい物を使はなければならぬがさういふことをされては困る日本人は實に狡猾だ日本と將來俱に仕事をする事が出来ないと言ふことは實物教授に依つて到る所恥を掻いて來ました日本人は一億といふやうな大きな貿易額に上つて非常に喜んで居られますけれども此爲めに多くの露西亞人に日本には斯ういふ悪い品物しか出来ないといふやうな悪感を抱かしたと云ふことは寔に残念なことであると言つて居りますだが其悪感を抱いて居つて非常に苦しんで居るがそれにも拘はらず此混亂状態になりまして自分の生命財産が危くなつたと云ふことになりまますと先生等は其悪感も何も忘れてしまつてさうして丁度一月二月三月頃になりますると全くそれを忘れてどうか日本に頼む此混亂状態を收むるのは貴國より外にないのだから頼むからどうかやつて呉れと云ふて吾々が一寸旅行をしましても相談に來ると云ふ有様で門を叩いて救済を求めて來たと云ふやうな状況でありますさういふ次第でありますからして隨つて色々な事業或は工場或は製造所或は金山或は山林といふやうなものも吾々の所でさへも此製造場をどうか協同にしてやつて呉れぬか日本人とやつて居れば大丈夫だ前に非常な悪感を抱いて居つたのも忘れてしまつてさうして日本人に救を求めて協同して呉れぬかと云ふやうな非常な反対な状態に

なつて殆ど門前市を爲すと云ふやうな位に大變にやつて来るやうな次第であります所が一二三月頃はさうでありましたがもう餘り日本の方でも救ふてやらうと云ふやうな氣色も見えない五六月になると段々それが減つてもう迎も日本は往かぬ是は迎も如何に救を求めても日本は救つて呉れないと云ふやうな有様に又變化して今迄門前市を爲して居つたのが段々寂しくなつて来るといふやうな工合になつて來ました所が幸に今日になりまして愈々日本は若干の出兵か何かをされて之を救はれることになりまして是が非常な歡びで彼等は迎へ又再び日本人の門前には市を爲して日露提携日露の親善といふことは益々是から密接になるだらうと存ずる次第でありますどうか此好機會を逸せずして徹底的に唯兵を以て之を救ふばかりでなく經濟的の救助もやつてさうして永く日露の親善日露經濟の發展の基礎を作ることには此際最も必要な事だらうと存じます

日本に歸つて見ますると獨逸の東漸獨逸の勢力といふものは全く嘘だ獨逸の東漸といふものはあるものか是は寔に嘘だといふことを盛んに話を聞きますリガにベトロフといふ人があります是は此革命前に於て露西亞で有名な愛國者として自分でも言ひ又外でも大變に威張つて居つた人です此人が最近——最近と申しても五月の末

ですが——哈爾濱のマリーエツチといふ大佐の所へ手紙を寄越して其手紙に自分は自他共に許した所の露西亞に於ける大愛國者であつた今日になると其愛國といふことは全く忘れてしまふのみならず寧ろ露西亞が吾々を悪くして居つたかと云ふことを憾む自分でさへも斯ふであるのだからして況して普通の人は無論我と同じ考を有つて居るだらうより以上の考を有つて居るに違ひない獨逸がリガを占領して以來其秩序の整然たる殊に製造工場に力を入れて製造は前の時には僅に百出來たのが今は其倍も三倍も出來るといふやうな状態になり又教育の方面にも力を盡し衛生に力を注ぎ其秩序の整然たることは實に文明の有様を知る是でこそ眞の文明だと自分は思ふと云ふ手紙であります之に依つて獨逸が又如何に能く懐柔をしてさうして能く始めて行くと云ふことが先づ殆ど分るのであります又同時に露西亞人は誰でも宜しい此秩序を救つて呉れるものは敵だらうが味方だらうが何でも構はない兎に角救つて呉れるものは神様だといふことが之に依つて半面から考へられると思ひます歐羅巴あたりには於て御承知の通りに芬蘭などは殆ど獨逸の掌中に歸してしまひました先達此芬蘭をどういふ國體にしやうかと云ふやうな問題が起つた其決議の末に當りまして丁度獨逸のシラネフ司令官はそんな色々な議論をすることは要らぬ王政にしなけ



れば往かぬではないかと云ふやうなことを言はれた其一言で以て皆大歓迎をして芬蘭は王政にすると云ふやうなことになつたのであります又波羅的沿海州に於ける所のエソニヤ、リウオニヤ、リガ邊の諸州此處に於きましては立憲君主としまして而も普魯西の王様を連れて来て其主にするといふことを言明したことがあります波蘭では國王と獨逸の大將のルーデンドルフが波蘭は獨逸の屬國にするといふことを定めたと云ふことがありますリウオニヤ地方に於きましてはどうするかと云ふと矢張立憲君主を標榜して全く獨逸の王様を迎へてやるといふことを決議して居ることもあります又クリミア方面に於ても矢張さういふやうな方針に向つて居るやうな状態であります此通りに歐羅巴に於ける所の良い所は殆ど全部獨逸の掌中に期しつゝあるのであります最も吾々が寒心に堪へないことは或は獨逸は尙ほ進んでロマノフ家を再興させやうと云ふやうな陰謀がありはしないか其徴がポツ／＼現はれて來て居るところでありますそれは御承知の通りにトボルスクと云ふ此上の方です(地圖を指示す)鐵道も何もありません田舎です人口は僅に二三萬人であります但其處から皇帝をエカチエリンブルグの都に移すと云ふと皇帝が殺されたと云ふ事でありますが果してどうか分りませぬ併し其皇帝をエカチエリンブルグに移すことは矢張獨逸の策略らし

いのであります是はハツキリ分りませぬが此リガでは古くには獨逸の武装した兵を以て之を警戒し又露西亞に於て最も模範的の軍隊として居る軍隊是は獨逸の將校が率ゐて居るといふやうな有様さういふ所に移す又皇太后はクリミアの方からキイエフの方に移す外國の彼方此方に行つて居つた皇族連中も獨逸に移すといふやうな状態がポツ／＼現はれて來ました是は全く獨逸の政策らしく見える四月の下旬に御承知の通りに獨逸の大使が莫斯科に着きましたそれと同時にもう愈々歐羅巴露西亞の方は獨逸の掌中に歸し又レーニン政府は獨逸の言ふことを何處までも聽くのですここでは是は自分のものだと言ふことを確信したものと見えてしまつてえらい要求をレーニン政府に致しましたそれは第一はどうかと申しますると露國に於ける所の英佛軍隊の抑留それからムルマンとアルハンゲリスタ鐵道は是は獨逸の方に譲れそれから露西亞の軍隊は武装を解除して解散しろ又聯合國の軍人はそれを除けて獨逸の將校を以て之にしるさうして新しい軍隊の編成新しい軍隊の訓練は獨逸の將校の下にやれと云ふそれに俘虜の交換問題西比利亞鐵道の管理の問題斯ういふ問題を提出しました若し之をやらなければ獨逸は無茶苦茶に進んで露西亞をやつ付けてしまふぞと云ふやうなえらい談判をやつたさうです殊に此問題などは餘程面白い交換問題に付

て話を聴きますと獨逸の俘虜で不具者傷病者或は過激派を助ける所の者は自分の方に返して貰ふそれは相成らぬ露西亞に留置くべし自分の方の露西亞人で不具者病傷者及び過激派に與して居る露西亞の俘虜は、前の方に返す健全なる露西亞の俘虜は獨逸の方に留めて置くこと云ふ斯ういふえらい考であつたさうです。是は本統かどうか知れませぬが、マア此位のことをやつたのでございませう。殊に恐しいのは獨逸の植民地の復興是は歐羅巴露西亞の方は御承知の通り殆ど植民地は前の通りに獨逸が植民地を取つたやうに再び植民をしましたが進んで西比利亞の方に於きまして丁度オビ河の此近邊にありますスラボロといふ所に在る所の植民地も戦争當時には皆獨逸人を追拂つてしまひましたが又今日は此處に植民をすると云ふやうな有様であります此通りの勢力を以て殆ど到る所獨逸の力が及ばぬと云ふことはない。と云ふやうな有様でありますが東露の方に於てはどうであるかと云ふと此勢力が溢れて東露に及んだどういふ風にしてやつて來て居るか。と云ひます。是は御存知の通りに獨逸は秘密機關といふものを非常な莫大な金を使つて設けて居ります。戦争初めには僅に情報的の機關でありましたが今日では全く情報的でなくして斯ういふことになつて居ります。東露の問題に付ては飽迄も日米の離間策をやれ。此秘密機關を何處までも總ての

機關と連絡してそれをやれ。第二には日本人は西比利亞を占領する野心がある。斯ういふことを東露の人間に言へ。第三には日本に對して支那人の敵愾心を煽動する。第四には馬賊を助けて日本人に對して何處までも反抗させる。第五には日本の出動に對して武装俘虜を使つて成るべく迅速に之をやる。是が秘密機關の今日に於ける所の主なるものであります。それが年々六千萬麻克即ち三千万圓といふやうな莫大な金を使つてやる。又現にやつて居ります。獨逸人自身で之をやるのでなくして多く丁抹人や或は瑞典或は商店員を使つて獨逸人其者は殆ど隠れて居りますのみならず赤十字員——丁抹の赤十字員瑞典の領事といふやうなものも俘虜を保護するとか色々な名目の下にさういふものを使つてさうして先程申しましたことを盛んにやらせます。或時は過激派と結んでさうしてやります。又或時は反過激派と結んで此事を盛んにやります。故に唯ズツと通過して見ますると過激派が何處に居るか。俘虜が武装して居るといふことも何處にあるか。といふことが分らぬのみならず其或所に秘密の網がありまして其網から出て獨逸の俘虜は決して武装して居るのではない。或は過激派はそんなにひどいものではない。と云ふことを其者に言はせる。そこで皆さうだ。な過激派はそんなひどい者ではない。又獨逸の俘虜は武装して居ないと云ふやうな風に考へて來るといふやう

な状態であります此秘密機關は獨逸の俘虜に最も密接に關係をして居ると云ふことは申すまでもないこととでございます之を何處までも使つてさうして或は工場に獨逸の俘虜を入れ或は山林にも入れ或は先刻申しました所の植民地のやうな所にも入れ或は所に依ると武装をさせ或は又過激派の知識の無い所の者に向つて鐵砲の射撃方法大砲の射撃方法を教へてやる有ゆる手段を講じて獨逸の勢力を扶植して居ります是が所謂私は獨逸の東漸——獨逸の東漸は武力を以て獨逸の本物が此方へ來るのでなくして此處に來て經濟上の扶植をする又其處に居る所の者を使つて武装させて東漸をするもう既に其處に居るセミヨノフ軍に對してタウベといふ將軍が指揮をしてやつて居るセミヨノフが強くなると出て來てやる弱くなつてデツとして居ると此方も武装を秘して居る換言すると東露に於ける過激派がまだ元氣で以て居るといふことは全く獨逸の勢力に依つて今日の現状を保つて居るかと思はれる次第であります又一方貿易品商品の如きはどうかと申しますと丁度是は今年の二月三月頃でありましたがイルクティック邊までは既に獨逸人の手に依つて出來た所の品物がやつて來ました是は獨逸で作つたのでなくして獨逸人の手に依つて彼得具羅士或はキエフ邊で作つて居つた物がやつて來ましたさういふ風に何處までも貿易上からも獨逸の

商品をして收めやう食品も現に自己の物を利用してやらう皆獨逸の勢力に依つて將來を圖らうと云ふことであります是は本統の武力の東漸よりも最も恐しい所の獨逸の東漸ではないかと私は信ずる次第であります

最後に皆さんに是非四ヶ條のことを記憶あつて尙ほ御研究あらんことを大に希望する次第であります其四ヶ條と云ふのは今日露西亞人の願を容れられてさうして武力で以て生命財産を安全にし其秩序を保ち尙ほ進んで經濟的の救済をする是は今日最も露西亞に對して必要な事であつて是が日露親善の全くの楔となる過激派も反過激派も何もありません總ての露西亞人は大に之を歓迎して居ると云ふことであると云ふこと、今日武力を以て立つと云ふのはそれは獨逸に對するのと及び純過激派に對抗するもので決して露西亞人に對抗するのではない敵は獨逸と純過激派である換言すると極く僅少なる所の猶太人と云ふて過言ではない猶太人と獨逸に對する所の敵である本統の露西亞人に對する所の敵ではない第三には獨逸の東漸は今日に於ては歐羅巴から來る所の武力の東漸でなく經濟的パチルスの扶植をして居る所の武力よりもつと恐しい所の東漸である其次には聯合與國殊に米國は色々な手段を用ひ二重政策を以て露國に臨んでさうして經濟的勢力の發展を圖らうと云ふことを盛んに

やつゝ居ります此四ヶ條に付て申すまでもないこととでございますがどうか十分御研究遊ばされんことを希望致して尙ほ之に就て何か御質問があれば材料は多少持つて居りますからして御返答を致すことに致します——極く簡單に是丈のことを申上げて御免を蒙ります(拍手)

## 露國の時事問題

陸軍中佐 井 染 祿 朗 君 講 演

二三日前協會からして何か來て話をするやうにと云ふ御話がございましたがどういふ題材を取らうかと云ふことに付ては色々考へて見ましたが要するに現在の時事に近い問題で而も其實相が明かでない世の中の疑惑に上つて居る問題を捉へることを主眼に致しましたそれは總て仕事を致しますには其仕事の基礎となります所の判断と着眼とを事實上の公平なる實相の觀察の上に置き事實の實相に基く正當なる判断に對しそれに應ずる所の處置を講ずると云ふのが必要でございますして實相に對する所の疑惑は正當なる判断の迷の本となつて躊躇不決心等の根本的過失は此間に生ずるのであります同様に人情の自然的弱點といふものは少しく困難なる場合には事實の實相を見ますのに事實其ものに觸れずして自己の考を以て臆測し自己の立場を以て判断をすると云ふことになりました此得手勝手の判断は決して爾後の推移に當らず仕事と狀況とは飛んでもない横町に這入りまして足元から鳥が立つのに驚き

ましたり或は齒ぎしりをして機會の逸失を悔む様な事になります兎に角事態の真相を明かにすることは仕事の發點に於て研究上第一の問題だらうと思ひます露國時事問題中今日迄世の中に疑問とされて居りましたのは對露問題と致しましては唯今森君が御話になりました獨逸勢力の東漸とか若くは俘虜の武装とか云ふ風な問題が今日世の中の疑問の焦點となつて居る様でございますそこで私は其東漸の力が將來如何にあるべきか或はそれに對して日本の立場がどうであるかと云ふ風な事柄それに對する對策等に就きましては爲政者及國民の判決に委する事としまして之れが判斷の根本資料たるべき實相を順序的に御話しやうと思ふのであります此實相は現在から見ますと大部分が歴史的になつて居りました此歴史を研究することが又將來の爲めに良好なる所の史料となるべきものであると云ふ考でございます此事實を初めからして順序を追ふて申上げまして其事實に基く所の現在の狀況及びそれに伴ふ所の將來の推移るべき途謂はゞそれに對する影響でございますそれに附加へて尙西比利亞の特性に就きての概念を申上げ様と思ひます動もすると日本人は日本の眼を以て西比利亞を見英吉利人は英吉利の眼を以て西比利亞を見るといふ風な傾向があつて列國の觀る所は如何にあらうとも日本人として日本人の考を以て日本の狀態を

以て西比利亞を推すことは餘程注意しなければならぬことであらうと思ひますから之をも付け加へまして差當り必要と認めまする西比利亞研究を致さうと考へます唯今森君からして獨逸の西比利亞に於ける所の秘密機關の組織に就て御話になりましたが之をもう少し私は事實的に申上様と思ひます是が獨逸の西比利亞に於ける所の施設の革命以前戦争と共に起つた一つの組織でございます其組織が俘虜の問題と關聯を致して今日に續いて居りましたして俘虜の武装と密接の關係がありますと此秘密機關の組織及配置と其活動の仕方が如何にも私共の敬服をし又學ぶべき所がありますので定めし若干の御興味があらうと思ひますから先づ是から一つ始めやうと思ひます

戦争の初に於て獨逸は西比利亞に於ける所の軍事上の情報機關として主にフィンランド人及瑞典人を使ひまして西比利亞の重要地へ間諜を配置させましたが是は單に軍事上の情報を集める例へて申すと西比利亞の動員はどういふ風にして西比利亞の補充兵はどういふ風に組織して居るといふやうな唯單純なる作戰に必要な軍事上の諜報機關として配置されて居りましたそれが丁度第一次革命の終頃迄といふものは殆ど此西比利亞の秘密機關の配置は變りませず人間が殖えた様子もありません所

が第二次革命のケレンスキーが聯立内閣を組織しまして戦争繼續を主張し第一次革命前後に露西亞に澤山入り込みました所の所謂獨探を國外に全く逐出さうと致したのでございます其當時に露西亞の本國に入込んで居つた所の獨探の大部分は北の海に逃れずして多くは西比利亞に難を避けたのでありますそこで西比利亞といふものは一時獨探の避難集合所になつたのであります此ケレンスキーの歐羅巴露西亞に於ける所の獨探の放逐といふことが西比利亞に澤山の秘密機關と中堅となるべきものを收容することゝなりましたそれが十一月革命でレニンの過激派政府になると同時に此禁令を解きました解きますると西比利亞に隠れて居つた所の獨探の大部分の者は再び歐羅巴露西亞に入り込みまして其中の必要なる或一二の參謀將校とか若くはそれに附屬すべき所の機關丈けが残りまして此處に西比利亞に於ける從來軍事的諜報機關であつたものが一變して政治機關となつたのでございますさうして二月の初からして三月中旬頃まで約一ヶ月半の間といふものは是等の配置やら準備やら大した活動がございませぬでしたが三月の十日から十五日頃に掛けては此秘密機關の連絡及仕事といふものが極めて組織的に動き出したのでございます其活動は後に申し上げます所の俘虜の武裝に於て最も大なる例證を示して居ります此處に秘密機關の圖

が掲げてありまするが此秘密機關の組織を申し上げますと莫斯科には獨逸の參謀本部の露國方面の諜報課長をして居つた所のフォンパウエルと云ふ大佐が居りまして是が總ての露國方面の諜報機關の主任を致して居りますさうして其部下としてクラスノヤルスクにニッセンと申します參謀少佐が居ります此ニッセンと申します參謀少佐が西伯利亞に於ける軍事上に關する經營の中心になつて居りますそれからしてオムスクには元とペテログラードにありました銀行家の獨逸種の露西亞人のゼウイッヒと云ふ者が居りまして是は主として經濟上通商上の中心點になつて居ります是が莫斯科に筋を引いて居つて東に向つて色々の機關を配置して居りますイルクーツクに居ります所の機關はイルクーツクに居ります獨系の猶太人の家——藥屋でありますが此藥店を本部にして瑞典人と露西亞人と朝鮮人と一部の丁抹人とを使つて居ります此處にありますストレンベルグなる者は獨逸種の露西亞人でありまして是が過激派政府になつてからは此イルクーツクの軍隊の司令官をして居る男であります是がニッセンと連絡を有つて居つて伯爵ブンデ是は瑞典の赤十字の社長であります是がケレンスキー時代に西比利亞に逐はれた者の中で西比利亞に残された秘密機關の一つの中堅の人物であつたのでありますルー人とかカン人とか申しますのは是は

六  
ポーランド人でございまして御承知でもございませうがイルクティック附近には元とポーランド分割時代に流されましたポーランド人の種が澤山ありまして其者の中には革命思想を有つた者は割合に多くありますそれともう一つ注意を致しますことはイルクティックに於ては朝鮮人を使つて居りますものが今日まで名前の知れ渡つたものが二十四人ございます其中で以て相當教育ある者であつて就中御承知の安重根の弟——安重根と云ふ名は今尙諸君の記憶に新な人物でありますやが此弟及び安の親戚即ち安重根の一族は皆此機關に加はつて非常に働いて居りますハ爾賓、ブラゴエス、チェンスク、ハバロフスク、浦鹽、ニコリスク等各主要地點には總て分派の機關を有つて居つて其中で一番注意を要しするのが此ニコリスク、ウスリ、スキであります此處には朝鮮人の間諜としての獨探の排日思想鼓吹の自稱憂國朝鮮人の集合所になつて居りますそこで元來此地方には排日思想の朝鮮人が多くありまして本國を遁れて李範允一派の者及びビシャオ、シヨ、一派の者が祖國を後に見て自由な生活を露國に歸化して致して居りますがさういふやうな者を皆集めて此圖に書いてありますシャ、オーシヨ、インキョ、リヤウ、リキヤウ、ウ此三人が主動者となりまして一味の鮮人を使つて此附近に居る所の朝鮮人に排日思想を鼓吹して多數の志士を集めて北韓地

七  
方に向つて派遣をして居りますさうして一般朝鮮人の排日思想を宣傳鼓吹して居りますそれで此東に於ける所の配置は其初に於ては前に申上げました如く此浦鹽及びハバロフスクのクンストアルベルスの商館の商店員を使ふ或は浦鹽に居る所のハツクの店員を使ふと云ふ風に獨逸系の商賣人を利用して軍事諜報を集めると云ふ位でございましたが其後凡そ二月の初から三月十四五日迄の間には此圖の様な斯ういふ配置が確に出來たのでありますそれは此伯爵ブンデといふ男がイルクティックに到着しましたのが二月二十日頃であります但其前に二月十四五日頃に此イルクティックに三十何人の瑞典人が一緒に入り込んだのでありますそれから五六日を経て此ブンデが入りました入ると直ぐ先着の瑞典人が動出したのであります動出しますと同時に此ブンデが出來ましてグツと一周して歸りました此處に到着したのが三月十日でありますすでありますからして此種の配置は殆ど二週間強の間に出來上つたのでございませう是は兎に角まさかの場合に於きまして如何なる配置と連絡を取るべきか等豫め地點及び方法の計畫といふものがございませぬければ斯ういふ機敏な方法は執られぬものであらうと私共は考へて居ります勿論是等に付ては私共の軍事上の方面から觀まして是は戰爭中に考ふべき事ではなくして戰爭以前に於て常に考へて居なければなら

ぬ事でありますから獨逸として此位の手際があつても今日感心する所もないやうであります。斯ういふ經驗に付きましては餘り多くの歴史を有ちませぬ私共は寧ろ一時驚いた次第であります。此機關の配置が抑々俘虜の武裝及び俘虜の移動俘虜の利用等に付ての根幹をなして居ります。斯の如き配布のあつたことを先づ一の骨として頭に御置きになつての上で次の御話を申上げたならば俘虜の事情其事實の真相が御分りにならうかと思ふのであります。

第一に申上げますのは西比利亞にあります所の俘虜の數であります。露西亞側にある所の俘虜情報局の書類を調べて見ると總て約二十五萬なければならぬのであります。であります。俘虜の輸送等に對して混雜をし又確實を缺く所の露西亞の記録であります。俘虜情報局の記録といふものは殆ど信を置けないのであります。實際の事實に於ては是よりも餘程少ない様であります。其後に於て色々の諸材料を蒐めて之を色々の方面から算へて見ますると十二萬から十五萬の間であります。其間に三萬の差があります。其位の差のある所が却て事情不明なる今日に於ける調の實相であります。記録から申すと二十五萬事實に於ては十二萬乃至十五萬といふ位の所が先づ事實に近い數らしくあります。露西亞側では二十萬と算用を致しまして最近に私

が露西亞側の之を調べて居りました者の間で色々意見を交換致して見ましたがそれも甚だ薄弱なやうでございます。事實先づ大極十五萬と見たならば差支あるまいと思ひます。露國革命の以前から少しく御話を申上げますが妙なものでございまして此俘虜といふものが西比利亞の開発といふことに關係致しましたのは已に露國革命の以前に於て其端を發して居りました。俘虜として俘虜收容所に居る間に於て西比利亞の遺物の收拾等に就き餘程土人を指導して居る側に立つて居ります。是は私共の聞き得た一例でございます。が御承知の如く西比利亞には澤山の牧場地として牛馬の骨などが到る所に轉がつて居ります。のでまだ土人の智識が牛骨馬骨を集めてそれから肥料を造る等の利用の途を知らなかつたのであります。が是等は俘虜中に斯道に長けた者が牛骨馬骨の利用法を教へてその指導に依て一つの小さな工場ではあります。が肥料の製作工場が設けられた話を聽きましてございましてそれからして手細工として西比利亞の河谷地帯で出來ます所の楊を利用して編物の家具を造て居りますが之に塗料を塗つて體裁を好くして強さを増すといふ風のことを土人に教へて居りましてそれを要する所の塗料とか或はそれに使ふ道具といふ風なものは當時俘虜の世話をして居つた所の瑞典人の赤十字社の醫員を介して獨逸本國から送つて居つた事



一〇  
實があるのでございます夫等が本になつて塗料とか或は藥品とかいふ風なものが俘虜に對する所の世話といふ名前で瑞典の赤十字社との連絡の途を辿つて西比利亞方面に輸入されて居つた事實がございますそれはまだ革命以前の御話です革命以前に於ても此様な事實がありました續いて革命後になりますると自然俘虜の取締といふものが非常に寛になりました——寛になつたからして自然脱走者が多くなりまます其脱走者の中には自ら衣食を求め爲に過激派の勞兵會の軍隊に入る者もありますし又中に此席で申上げますのも如何はしく存じますが其土地の婦人と關係をしてさうして其附近に自分の仕事を求めて家を起す職の有る者は其土地の者と内縁の結婚をして家を持つ例へて見ますると時計職工でありますとか或は鍛冶屋でありますとか或は蹄鐵を打つ者であるとかといふ風の者は其土地に於て職を求め易くありますので俘虜から脱走して土地の者と結婚をして家を持つといふ風なことが起りました漸次此俘虜の脱走といふものが盛んになります一方に於ては此過激派の地方の勞兵會は自分の力を増します爲めにさういふ風なものを自分の部下に呼ぶことを勧めるといふことになりました初めの間は脱走をする所の俘虜が衣食の爲め又生活の自由の爲めに半ば義勇的に半ばは生活的に過激派の軍隊に投じたといふことが是が

抑々俘虜の武器を取りまする初めてござります是は一月の終から二月の下旬頃までの間でございました此時には已に俘虜利用の秘密機關は相當に連絡して隠然準備して居りましたので當時已に脱走した俘虜將校の活動が外面に現はれて居りまた丁度其當時西比利亞沿線などを御通りになりました日本の御方などの中には西比利亞の各停車場に汚い俘虜が煙草を銜へて彷徨いて居る何も危険はないと皮相的に断定されました時代が其當時の時代であつたらうと思ひます俘虜將校の移動は漸次組織的になります次で二月の終になりますしてニッセンがクラスノヤルスクに集りますブンデがイルクーツクに参りますと云ふ風に漸次具體的に發展しまして此時期に入りますと俘虜の脱走といふことが集團的になりますして就中俘虜將校の移動といふことが非常に盛んになりましたさうして俘虜の將校はクラスノヤルスクとイルクーツクに向つて皆集められた實跡がありますさうして二月の終三月の初頃からして今迄衣食の爲めに又生活の自由の爲めに過激派に入りました俘虜の動作といふものが更に新なる現象を呈するやうになつたのでございますそこで其後に於きます所の俘虜の移動——俘虜の動きましたのと武装しましたのと事跡に就きて觀察しますると狀況に依りましたして導き方が色々に變り變つて來て居りまするので之を分り易く致

します爲めに凡そ此間の變化の狀態を先づ四期乃至五期に分つて順序的に申上げやうと思ひます

若し此俘虜の移動及び武装を第一期と命名致しますならば唯今申上げます所の俘虜の任意の脱走が第一期に屬しまして任意の武器を取つた時代でありますそれが唯今申上げました如く此ブンデヤニツセンが秘密機關を配置しました後に於て獨逸の將校がクラスノヤルスク及びイルクローツクに集まるといふ時期からして俘虜が各地方毎に各地に集まるやうな状態がございました之を局部的集合期とでも申しませうか例へばミヂネデンスク附近に居る者は皆此に集まるチタ附近及近在の者はチタに集まると云ふやうな風に主要地點に俘虜が皆集められたものでありますさうして集まつた者の中で其附近々に團まつた者が露西亞の軍隊に入り出したのでございますすそこで之を事實の上から申上げますと寧ろ使喚して軍隊に入れた時期と且局部的に集中した時期が第二番目に參つたのであります第三番目に於ては是は三月の下旬になりますと此クラスノヤルスクに於て俘虜のみを以てする軍隊を編成しました今迄は過激派の軍隊の中に入れて寧ろ義勇的に又名に於ては俘虜が自ら過激派化したであらうと云ふ解釋の餘地もありましたのが事實に於て俘虜ばかりが軍隊

を編成し出しましたので流石の米國も俘虜の武装は争ふべからざる事實として認めざる事を得ない事がありましたこれが第三番目の時期でありまして此時に於ても我有識者若くは權威ある言論界の中でも何等の理由なく之を否認する者も尠からざりし有様にて不明なれば不明で明かにする道を講ずべき必要あるにも拘らず唯茫然と否認して居たらしくありますが私が事實の真相闡明の必要を説きますのも之が爲です斯の如き第三番目までの間といふものは前後の狀況を考へて見ますと殆ど伯林あたりとは何等の關係が無くありまして寧ろ莫斯科に於ける所のフォンパツェルの意思とも必ずしも確實な連絡がなかつたらしくあります唯ニツセンが其訓令を帯びて自分の仕事として唯今申上げましたやうな設備を致したらしくあります随つて此俘虜の武装及び俘虜の移動といふものは單にオムスク以東に限られて居つてオムスク以西は何等の關係がありませんねさうして結局は當時の目的といふものを歴史的に考へて見まするとニツセンは第一が斯の如き方法を以て過激派と結付いてさうして唯今森君から御話になつた様に政治的の陰謀として日米の關係を離間するとか日本の極東に於ける仕事を多くするとか露西亞人の對日反感の心を挑發するとかいふ風の任務の達成上——任務を達し得ます上から云ふて過激派を利用し之を使つて自

分の力を展ばさう又必要に應じては之を以て何か役に立つ事もあるであらうと云ふ風な漠然とした目的に向つてした仕事でありましてそれを將來如何にしやうと云ふ上に付て適確な考はなかつたらしくあります過激派側に於ては要するに自己の勢力を扶殖する上に付てさういふ立派な助があるものでありますからそれに依つて益々自己の立脚が固まる譯でありまするので頻りに之に共鳴を致して此時代に於て獨逸の秘密機關は舊政府時代の軍隊の持つて居りました露西亞の倉庫に在ります所の兵器とか被服とかいふ風のもを自分の手で舊政府の軍隊關係者から買つて居ります事實もあります是等は後に何か仕事があるだらうと云ふ風な豫想の下にしたものと思ひまするが兎に角買収に依つて舊政府時代の軍隊の持つて居つた被服や武器の若干を買盡して居りますそれは其後に於きまして俘虜軍隊の編成の一つの基になつて居りますのでありまするが要するに此時代に於ては唯出先者が自分の受けた軍令に依つて出来る丈の仕事をするといふ丈のことであつて其範圍も全く西比利亞のオムスク以東に限られて居つたのでありまするがそれが四月上旬になりますると單に西比利亞の問題のみでなくして之が歐羅巴露西亞及び獨逸と本元と結付くやうになつたのでありますそれは唯今森君が御話になりました如く四月六日が俘虜交換の協約が出

來た日でございまする四月十日からして此西比利亞方面の俘虜の移動が俄然變つて居りますそれは今日迄はオムスク以東に限られて居つた所の俘虜を成るべく健全分子丈けは——健全分子と申しますると過激派に感染しない所の者であつてさうして身體の健全な者であつて幹部は成るべく多く其中に含めてそれを歐羅巴戰場に補充の爲に持つて行かうといふ計畫が立つたらしくありますさうして一面に於ては丁抹の公使を介して彼の地の勞兵會に頼みまするし一面に於ては此機關を利用して彼の地の俘虜收容所に向つて其事を傳へて居りますそこでさういふ趣意が定まりましたが此處に又大に妙な現象の起りましたのは初めの間は斯の如くニツセンあたりの考では成べく過激派軍隊に隠れて獨逸の俘虜を基礎にした武力を造らうと思つたのでございましたが此頃になりますると奥地利人及びマヂャール人等の中には事實的に過激派と爲つたのでありまする中に入りますと矢張朱に交れば赤くなると申しまするが元來が放縱の生活をしてさうして勝手氣儘に出来るものでありますから自然の間に感化されました過激派の軍隊に嘗ては使賍をして勸めて入れた俘虜が事實に於ては過激派を爲したのでありまするそこでニツセン等の機關は之は困つたものである何とかしなければならぬと云ふので過激派に化せられた者を健全なる俘虜の中から選

出すに付て非常に苦心を始めたらしくあります此苦心を致したのは長いことではございませぬで幾何もなく更に方針が變りました俘虜の武装といふものは世間の疑問とされ各國も之を疑つて居りましたのがもう此頃になりますると争ふべからざる事實となりましたので四月十六日に亞米利加が非公式に抗議を申込んでありますロピンスと申しまする非公式の代表者を以て獨逸が俘虜に武装することは西比利亞の保安を害するといふことの抗議を申込んで居りますが其抗議は獨逸にすると同時に過激派政府に——レニン政府に向つても同時に致して居ります其抗議が申込まれますると三日の中に四月十九日に獨逸は無線電信で以て之を辯明をして反對に過激派に向つて次の如く要求して居ります『過激派は自分の國の俘虜を勝手に自分の國の軍隊に入れて居るさうである就中其中の大部分の者は既に過激派主義を宣傳をして總て過激派化して居るさうであるさういふ風な軍隊は早速解散をし又俘虜の武装は直ぐ解除するを要するさうして爾今俘虜に向つて過激派思想を宣傳しないと云ふ證言を與へる此事柄が出来ぬならば獨逸は必要なる地點に向つて必要なる所の防衛の手段を執る』と云ふ申込を致して居ります此申込をすると同時に一時獨逸は此主義に基いて出來得る限りは西方へ輸送し本國に還し病氣其他で已むを得ない者は殘

して呉れと云ふ主義に變りました是が實行をレニン政府に要求して居りますこれが抑々西比利亞の俘虜問題といふものを本國と結付いた所の動機であります尤も此時代は西戰場に於てヴェルダン攻撃に大分死傷を出しました爲に獨逸は戦線の補充に於て多くの人間を要求して居りました時代でありますから此時代に於ては軍事上の見地からして獨逸として斯ういふ考の起つたのも無理はないと思ひます所が此主義といふものは再び變化を致しまして四月の下旬になりますと又是が變りました西には持つて行くに及ばぬ皆残せと云ふ命令が莫斯科に參つて居つた其秘密文書が明かになつて居ります是は色々考へやうもございしますが若し之を軍事上の見地から申しますれば五萬や十萬の人間が露西亞に残つて居た所が大勢上大した關係はないそれよりも此方面に残した方が眞逆の場合將來の爲に有利であると云ふことが軍事上の必要と又將來に於ける政略的から割出したものではあるまいかと思ひますが要するに是は何等考察すべき資料がございませぬ——が兎に角一時は此邊の俘虜を皆集めましてクラスノヤルスク、オビ邊まで汽車で送り出した事は確かでありましたが途中で留まりまして今日までオムスク以西に於ては一兵も參つて居らぬことは確實でありますさうして唯今は此イルクーツク以西の狀況は實は餘り十分に分つて居りませ

ぬが現在に於ては獨逸系の露西亞人の將軍であるタウベが親方になつて此附近の俘虜を集めまして五百人——大隊を六十九大隊二十三聯隊を編成しかけて居ることだけは最近に戻りました確かな筋の情報及び其他目に觸れました所の總ての情報から見まして明かのやうでありまするが是がどの位の程度に進捗して居りますか未だ分りませぬそこで御承知の如く此方面に於てはチエツクとの戦争が起りましたしてチエツクの衝突が此西比利亞に於ける所の俘虜の行動を一層旗幟を明かにしたのであります初めは獨逸は過激派の軍隊を使ひましてチエツクの東に送ることを妨害致しましたが其後は自分の編成して居る俘虜軍隊を以て之に當らしたやうでございますそれ其俘虜軍隊の中就中マヂャール是は御承知の通りチエツクとは犬猿管ならざる不倶戴天の對者でありまするのでマヂャール人が頻りと跋扈をして妨害を致しまするので耐へ兼ねて是と衝突を始めたと云ふのが真相のやうでございますそこで此以西に於ける状況はどういふ風になつて居りますか實はチエツクと俘虜軍赤衛軍又最近に起つた反過激派軍とが入亂れて居ります有様で眞の状況は分りませぬが明かにになりました東の事實を申上げますると新聞で御覽の如く此附近に於て第一線と衝突致しました過激派軍隊の兵力及び俘虜といふものから御考になりましたも今俘虜軍隊

は過激派の軍隊の一つではなく眞の獨逸の武力の一と化して居ります事が明瞭であります是はチエツク軍がニコリスクの北方地圖で申しますると此附近に於て戦争をしました軍隊の數として得た所の状況でありまするが烏蘇里に居ります獨逸の俘虜は四千五百人過激派の露西亞人の兵力は二千七八百人である是はチエツクが自ら戦闘に依つて得た所の情報でありますさうして俘虜の將校が有つて居た所の獨逸から莫斯科に送りました無線電信の訓令に依りますと俘虜の軍隊のことを國際同盟軍隊といふ名を付けて居ります國際同盟軍隊は將來イルクーツクに居る所のフォンタウベの隷下に入るを要するさうしてその經理及處罰給養といふやうなものは悉くタウベの節制を受けろさうしてチエツク及び聯合國の軍隊に向つて極力反抗をせよといふ意味でありまして此訓令が國際軍隊の名前の下に傳はつて居ります隨つて現在は過激派軍隊でなくして事實に於て國際軍隊とする所の獨逸軍が事實上に於て此方面に働いて居るのでありますさうして是から以東の俘虜の軍隊はチエツク及び露西亞側其他の諸情報を集めて見ますと武器を取つて居る者が約一萬八千五百人武器を取らざる豫備員が約二萬人といふ數になつて居ります唯今申上げましたのは俘虜の武装の最初からして今日までに至りまする所の經過の大要でございます是は時々得

ました所の信すべき情報を基礎にした所の實相であります

さうして尙ほ一つ申上げますのは斯の如きニッセンの軍事的設備が進みましたと同時に此ゼーウキツヒの經濟的の設備が是が相當に進んで居るらしくありますそれは斯ういふ關係を持ちまして過激派との間に親しい連絡が付きます電報の如きは總て此邊の勞兵會を連絡線に使つてやつて居る始末であつて連絡及び交通關係が付きましたのでそれを利用致してゼーウキツヒの致します所の通商貿易が此間に開けました主に醫療器械とか藥品とか染料とかいふ風の餘り澤山の嵩を有さない所の獨逸品は此時代からして殖えて居る此西比利亞へ非常に擴つて參りました

そこで此俘虜といふものが西比利亞に對する影響と致しては是は色々觀方もありますので之を私共の軍事上の方面から申上げますと現在の状態が直ちに日本を危くする日本が是が爲めに直に國家の運命を動かすといふ丈の問題では無論ございませぬが斯ういふことは言ひ得るのであります西部戰場の状況の如何に依つては獨逸が極東に於ける所の自己の考といふものを鐵道に依つて武力の後援の下に東に展ばす丈の準備が出来て居る言ふて見ますと獨逸は極東に於ける軍事的行動の先驅として準備が出来て居ると云ふことは言ひ得るのであります之を經濟上から觀ます

と兎に角此十五萬といふ獨逸の俘虜の此根といふものを此儘据ゑ置いたならば將來に於て抜くべからざる所の一大勢力を爲すであらう—斯ういふことが言ひ得るのであります此二つの判定丈は是は事實の問題で想像の想定ではございませぬそこで此事實を基礎に置いて先づ西比利亞といふものを觀ます上に付て私が蛇足ではございませぬが次の如き特殊な狀況を御考の中に置いて此問題を御考へになる必要があるものと思ひます

第一は此西比利亞といふものは兎に角一千二百萬平方キロ以上の廣さを有して居つてその人口といふものは百二十萬に充ちませぬ極めて人口の稀薄な土地でありまして而も其百二十萬未滿の人口の中の約二十五%といふものは草昧にして文化尙ほ開けざる土人でありまして後の七十五%の者の中でも智識階級の者は殆ど其一割に過ぎないのでありますさういふ者が此廣い千二百萬平方キロの大西比利亞を領有して居るのでございまして所有者たる人力の土地の自然に對する力は極めて微弱であります人は申しまする西比利亞の經濟の中堅は猶太人にあると其猶太人の人口は幾らかと調べて見ますると八萬に充ちませぬ而も其八萬の中の八十%は極く西露西亞のポーランド、ミンスク附近から遁れた所の賤民でございまして眞の力有る所の猶

太人は千を以て數へるのみでございませぬ其者が事實に於て西比利亞の經濟の實權を握つて居るのであります又人は申しませぬ西比利亞は從來の歴史關係上ポーランドの後裔が比較的的政治的の勢力を有つて居るそれから御承知の如くポーランドの第一回第二回分割以後ポーランド人として國事犯に問はれました者が澤山ありましたのでそれを皆集めて西比利亞に流刑に處したのであります其後裔及びそれに附いて参りました者が残つて居りますのが現在人口に致して老幼男女を加へて八萬あります其八萬が西比利亞には一の社會黨の中堅として大なる政治的勢力を持つて居ると斯う申して居ります千二百萬平方キロメートルを有つて居る所の大西比利亞に對して經濟的實權を握つて居ると云ふ猶太人政治的勢力のあると云ふポーランド人其者の數といふものが斯の如く微弱なものであります左れば十五萬の獨塊の俘虜と而も働盛りの智識の有る立派な身體を具へた十五萬の獨塊の俘虜といふ者の西比利亞に於ける力は是は決して算外に置く譯には参りませぬ動もしますると彼の廣い中に十五萬の俘虜がと斯うも思はれますが實際は決してさういふ状態ではございませぬ元來が御承知の如く嘗ては莫斯科からして太平洋まで通ずる間極く僅な克薩哥が河に船を浮べて移動した事に依つて斯の如き廣い領土を擴めたのでございませぬ

て其當時に於ては僅な克薩哥が小船に依ります移動をしても尙ほ動いた西比利亞でございませぬそれが今日に至りましては鐵道を引張りまして鐵道の沿線は開けて居りますが必要するに此廣い土地に對する人間の力は極めて微弱な状態にあるのでございませぬから之に加はる力が比較的に他の世界の領土他の世界の人類の領有して居る土地に比べて見ますると極めて呆氣ない僅な力を以て右に轉び左に轉び自由に動くものであると云ふことが分るであらうと思ひます極く卑近な例を以て申し上げますと西比利亞なる現在は大きな竹籠に貼紙をしてそれに墨を塗つて鐵の玉の如く見せたものであります唯之を考へずに遠く望んで見ますると大きな鐵の玉で中々五人や十人掛つたのでは動きさうなものでない非常なものであると斯う見えますが傍へ行つて仔細に見ますると是は空虚だ指を以て右に動かせば右に動く左に動かせば左に動く斯ういふやうなものである併ながら此籠は何時までも空虚になつて居らない此籠に事實内容が充實した場合に於ては挺子でも動かぬ斯ういふ將來を有つものであるといふ斯ういふ風な考を持つて先づ西比利亞の大體を御覽になることが必要であらうと思ひます

もう一つは此西比利亞を經濟地理學上から御考になることが必要だと思ひます元

來人は申しまする此西比利亞は將來に於ける所の世界の資源の原料供給地であると云ふことは是は現在世間に行はれて居る所の議論でありますさうして世界の各國は此戰爭に於て金屬は勿論總ての資源を多く使つて居る其結果現在に於ては亞米利加の如きは資源保存論なるものが鼓吹されて居ります即ち國家の資源は成るべく之を保存しなければならぬ之を浪費してはならぬと云ふことを申して居りまするが是は各國に於ても認めて居ります各國は軍備の必要上自國の自給自足の關係から戰後に於ては力めて資源を保存する事が必要なる一政策としてどうしても鼓吹さるべき運命を持つて居るだらうと思ひます斯の如き運命と戰後の復舊に要求する所の多大の資源の必要とは今迄開けて居りました所の世界の各資源の供給地から之を仰ぐことは避けて之を未開の地に於て又勢力の未定の地に求めて之を充塞し且勢力及ばざる地方に於て之を求めて自分の勢力に收めると云ふことが自然に起るべき趨勢でございますまして是が爲には西比利亞の如きは世界に對する重要なる一資源地として將來著名となるべきものであると云ふ説は一般に認められて居ります此意味から申しまして西比利亞といふものを大體の地形から觀察致しますると此バイカル以東の地區といふものは主なるものは森林及び鑛山にあります就中其鑛物としての産地はザバイ

カルに集中して居ります鐵、銀、鉛、亞鉛、就中金はボダイボ附近此バイカルの南方イルクツクの南方の山脈此附近にも澤山ありますゼーヤ河谷の砂金も有名であります兎に角世界の有名な金産國としての露國の金産額の七十%は西伯利に産するのでありますそれから鐵に致しましても此處には極く古い百七八十年前に設置されました露西亞のペテロフスキーザイオードといふ鐵の工場があります是等の歴史を調べて見ますると極く古い歴史を有つて居りました蒙古人の時代からの鋼鐵の産地であるらしく之を歴史的に研究致しますると成吉思汗の武器の資源は蒙古から得たものではありませんでザバイカルの南端此附近からして出たらしくあります此ザバイカル此一州は鑛産地として非常な資源を有つて居る尙ほ此ゼーヤ附近に於ける所の砂金鑛及び黒龍江の左岸地此附近に於ての金鑛といふものは已に世に知られて居ります森林に於ては近くは沿海州の此附近及びザバイカルの北方レナ河の左岸の圖で申ますと此地方等には殆ど千古斧鉞を入れざる大森林が連つて居ります併ながら農産物と致しましては僅に此ゼーヤの河北此附近に小さな平原がありますニコリスクの附近の烏蘇里河の沿岸に少しありますオノンの河谷此附近に僅にございますが大體から申ますと耕作地は極く僅でございますまして結局バイカル以東の此廣い間は露領に於



ては糧食は獨立し得ませぬ糧食は北滿洲が一つの補給地になるべき運命を有つて居りますさうして之を輿地學上から考へて見まするとザバイカルとバイカルといふものは西比利亞といふものを全く二つの瓢箪の括りの如く締めて居ります此處のシャン山脈と申しまする大山脈がバイカル湖に迫つて居つて其湖が南北に亘つて居りますさうして此湖の岸は極めて險難な狹隘で非常な大工事をして僅に汽車を通ずるやうな所でありますから是が東に參りますにも西に參りますにも一つの關門になつて居りますのでありますから是から東といふものは一團を爲すべきものでありまするし地形の上から又經濟的から申しましても此北滿洲に依つて總て是は生活し得べき運命を有つて居るのでございませす此西に於て申上げますると穀産地としてはピースクバルナウル此附近が所謂アルタイの大平野と申して是が俗に申しまする西比利亞の穀倉地でございますさうしてもう一つの穀産地と致してはオムスクの西からしてクルガンまで此附近が又非常に大なる穀産國でありますのでありまするが此アルタイ地方が穀産地の主になつて居りまして此西の西比利亞の生活の爲めに要する所の資源は其中堅が此アルタイ地方に依つて維持されて居ります之を礦産から申しますると既に御承知の如くアルタイ地方が其主なるものでありますして此アルタイの地方の

南方タンヌール山脈及び此處にアルタイ山脈がありまするがアルタイ山脈の東支脈即此附近の地帯が主に金及び鐵等の礦産に名高くあります又ウラル地方は銅、白金、鐵を以て名高くありまして尙ほ最近に此オレンブルグ附近に非常に大なる鐵礦が見付けられたと云ふことでございますそこで斯う云ふ風な大體の地理學上及び經濟上の考から見ますると若し之を亞細亞と歐羅巴といふものを分ちまするならば自然此ウラルといふものが境にならなければならぬのでございませうでありまするが此西比利亞オムスクからしてウラルまでに亘りまする地區といふものは之は何れかと申しますると輿地學上から申しましても殆ど歐亞の兩方の間にありまするそれは西部西比利亞の南部の地區がステツプの高原地でありまして餘り良い土地柄ではございませぬさうして中央亞細亞とは殆ど縁が切れて居ります此地區といふものは一の高原として將來に於ても大なる人民の繁殖の將來を有つて居りませぬでございませするから之に續いて此北に在る所の此地區といふものは自然此地帯にクツ着いた所の一の東西兩方面の緩衝地と申しまするか接續地と申しまするかさういふことに役立つことが自然であらうと思ひますさうして此地區といふものがオムスクより東に纏めて此太平洋系水の東の海に出るのが經濟地理學上順當であるか或は西に向つて太平洋系水に

出るのが順當であらうか出るばかりではございませぬ入りませぬ物も此地區といふものは東に屬すべきか西に屬すべきかと云ふことが之が將來の力の差と市場の關係とに依つて岐かれることになるだらうと思ひます若し之を私共の方の軍事上の立場から申しますると兵要地理の見地から申しまする兎に角此海といふものを確に浪を靜にするならば此口を塞ぐが一番宜い此口を塞ぎ得たならば一番經濟に一番樂に此海を鎮めることが出来る若し此海を荒しに来るならば此門を越えてザバイカルと云ふ所に出なければ東に進む足場が無くなるのであるからして此ザバイカルといふものを足場として敵に渡すことは此海を守るのには餘り望ましくない所である此處の足場を與へる爲にはどうしても之を抑へたいけれども之を確かに抑へる爲めにはもう一つ其前備といふものがどうしても一つなければならぬ其前備といふものは土地の關係から申しまするとクエンガと云ふ驛が此處にありまするがそれからして此間は連山地でありまして之を西西比利亞の山地地區と申して居ります一つこの地形が此處で變つて居ります之を大體に於て極く目標を分り易く申しますると此オビ河の河の線と見れば大差ありません此オビ河の河の線までといふものは少なくとも此アルタイ地方の穀倉地といふものを前備の力の中に入れてさうして自分は之を利用して成るべ

く他の者には使はせまい斯ういふ必要が起つて来るのでございませぬ之は夢のやうな御話でございませぬが若し之を此の地圖に對して軍事上から申上げますると斯ういふ風な希望を有つて来るのでございませぬ近來は——近來ではございませぬ大分世間に大日本主義亞細亞主義と云ふやうな御議論を識者の間に承りまするが其意義に於きまして之が五十年の後になりまするか百年の後でありまするか又二百年の後であるかは存じませぬが大和民族の將來といふものがありまするならば所謂大日本主義は兵要上經濟上自然の地理的關係から申しまして誇大的の夢物語でなくして事實になり得る時代もあらうかと思ひまするし又それに對して一つの力とを加へることが今日に於ける所の爲政者國民及び親として祖先として之を子孫に残す所の現代の私共の務ではないかの如く感じられますペートルが其即位後十何年かにペトログラードに海の口を求めて彼處に首都を開きました當時に於て南海は開け北海に於てはバルチックの口を開いた將來我國を統治する所の子孫は須く東に向つて太平洋に向つて口を開けといふことを申して居りますそれは或者は之は事實ペートルの遺言でなくして後人が——後に歴史家が作つたものであると云ふことを申して居る者もございませぬが私はペートルの所謂極東に對する遺言が事實でないかと否定するの論據なき

を認むるものであります恐くは事實であつたらうと思ふのでございますそれは當時  
ペートルが北及西南に於て多事にして東に向つて其機會がなかつた爲めに彼の雄圖  
を以て斯の如き考を持つたと云ふことは決して嘘ではなからうと思ひますが此ペ  
ートルが東に海港を求むべきことを其子孫に宣傳をして其宣傳後年を経ること百七十  
餘年にして初めて浦鹽斯德なる所の不凍の海に於て西と東を望むだ雙頭の鷲の旗が  
翻つたのでございませぬに角百七十年の後に於て此廣い八千哩も列つた所の西比利  
亞を越えて河に小船を掉して兎に角今日の如く交通連絡及び總ての文化設備といふ  
ものが猶ほ及ばざる自然の曠原を越へて結局は其理想が實現されて居るのでござい  
ます今日此歴史を思ひましたならばペートルの雄圖と言ひまするか又露西亞人の天  
佑と申しませるか兎に角天佑もございませう就中此西比利亞征服に付ては天佑が大  
を爲して居りますか要するにペトログラードに於て睨まへた所の太平洋の海港は百  
七十年の後に於て其事實が實現されて居るのでございませぬ今日世に行はれ世の識者  
が先覺者として主張する所の大亞細亞主義大日本主義と云ふ風のものとは是は私は決  
して夢の問題でなくして眞面目に考慮を要すべき問題であるものと考へまして此考  
の下に此西比利亞といふものを爾く觀ることが必要ではないかと考へます爲めに西

比利亞なる所の大體の觀方の私の意見を附加へた譯でございます  
要するに私の感じまする範圍に於きましては少しく我識者及び上下の總ての方が  
西比利亞といふものを觀ることがどちらかと申すと少しく軽くあるやうに考へます  
るのと反對に又西比利亞なるものゝ運命及び之れに働くべき力に對しては餘り億劫  
に思ふて居られ過ぎるやうに感じますのでございませぬからして此西比利亞に對する  
事實即ち俘虜の力であるとか或は他の國のする仕事であるとか云ふものは唯今申上  
げましたやうな御考を持ちまして特別なる配慮の下に其事實を考察されることが必  
要だらうと存じます甚だ詰りませぬ講演を長く續けまして御清聴を煩しまして寔に  
恐縮に存じます何か御尋になることがありましたならば私の知つて居ります範圍に  
於ては參考となりませぬならば喜むで御答致さうと思ひます(拍手)

326  
332

大正七年九月十一日印刷  
大正七年九月十四日發行

(非賣品)

編輯兼  
發行者  
東京市麹町區內幸町一丁目三番地  
五味貞吉

印刷者  
東京市赤坂區山田町五丁目十一番地  
山田三次郎

印刷所  
東京市赤坂區田町五丁目十一番地  
金城活版所

發行所  
日露協會

電話新橋  
三二九  
三三九  
〇一  
番番

326

332

終